
新型コロナウイルス感染症罹患後症状 県民向け実態調査(追跡調査)

結果のまとめ

静岡県健康福祉部感染症対策局
新型コロナウイルス対策企画課

令和6年3月29日

目次

1	調査の概要	1
2	追跡調査の対象者について	2
3	回答者の属性	3
4	回答者の罹患時期	4
5	診断されてからの経過期間	5
6	追跡調査時点の罹患後症状の状況	6
7	追跡調査時点で自覚している症状	10
8	症状有と回答した人の割合	11
9	初回調査時にあった症状の追跡調査時点の状況	12
10	初回調査時にあった症状の残っている割合	15
11	追跡調査時点でよくなって消えた症状	16
12	医療機関への受診状況	17
13	受診しなかった理由	20
14	ワクチン接種状況と接種後の症状変化（追跡）	22
15	ワクチン接種状況と接種後の症状変化（初回）	23
16	仕事への影響	24
17	就職活動への影響	27
18	療養終了後の生活の変化	28
19	まとめ	29

1 調査の概要

目的	新型コロナウイルス感染症の罹患後症状(後遺症)に悩む方の実態を把握するため
対象	初回調査に回答した方(※)のうち、追跡調査に同意し、メールアドレスを得られた350名 ※複数回答者は1名とする。
調査方法	WEBフォーム
実施期間	令和5年12月28日～令和6年1月31日
回答率	40.8%(136人/333人、17人は送信エラー)
主な調査項目	現在残っている症状、症状の残っている割合、医療機関の受診状況、仕事への影響 等
感染株グループ	本調査では、罹患時期により次のとおりグループ分けする。 令和2.11月～令和3.12月 :デルタ株以前 令和4. 1月～令和4. 6月 :BA.1・2 令和4. 7月～令和5. 9月 :BA.5以降(XBB系統を含む)

2 追跡調査の対象者について

【初回調査】

静岡県公式ホームページで、罹患後症状を抱える方に対してアンケート調査への回答を募集(分析時点の回答者1,141人)



【追跡調査】

初回調査において、追跡調査に協力できると回答し、メールアドレスを記入した350人を調査の対象とした。

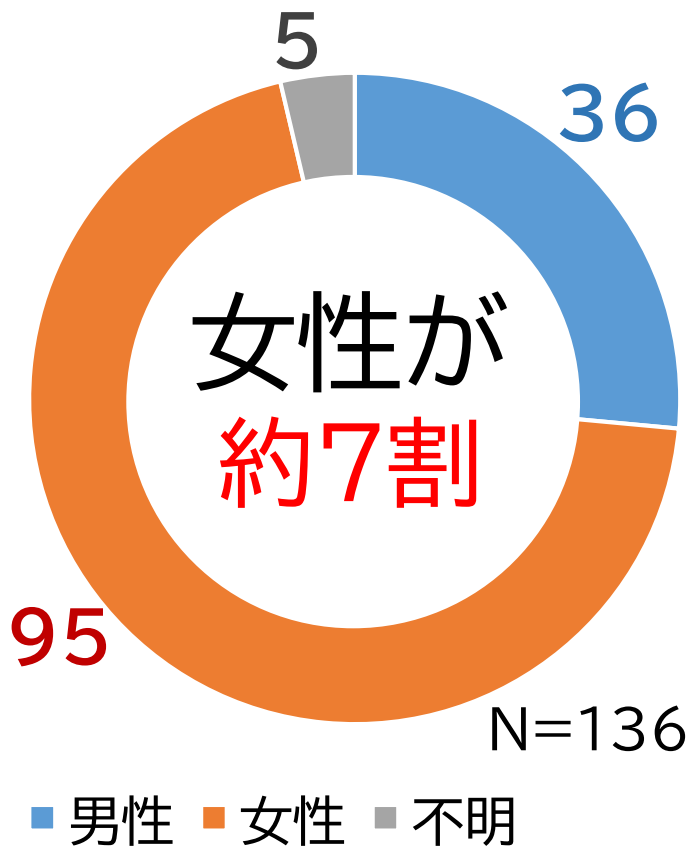
そのうち、17人はメール送信エラーとなったため、333人に追跡調査への回答をメールにより依頼し、136人から回答を得た(回答率40.8%)。

【留意事項】

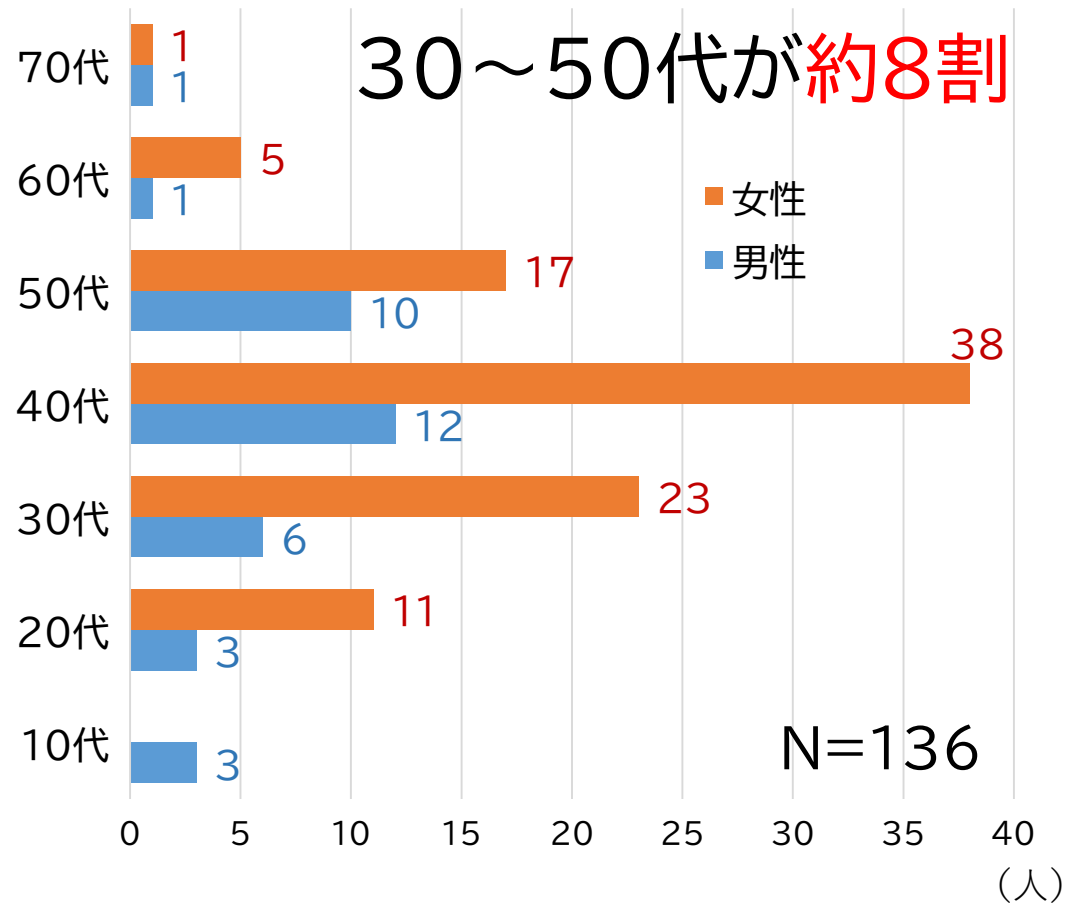
あくまでも、新型コロナウイルス感染症の罹患後症状を抱える人の状況を把握するための調査であり、新型コロナウイルス感染症に罹患した人全体の罹患後症状の状況を把握するための調査方法となっていないことに、御留意ください。

3 回答者の属性

(1)性別(人)

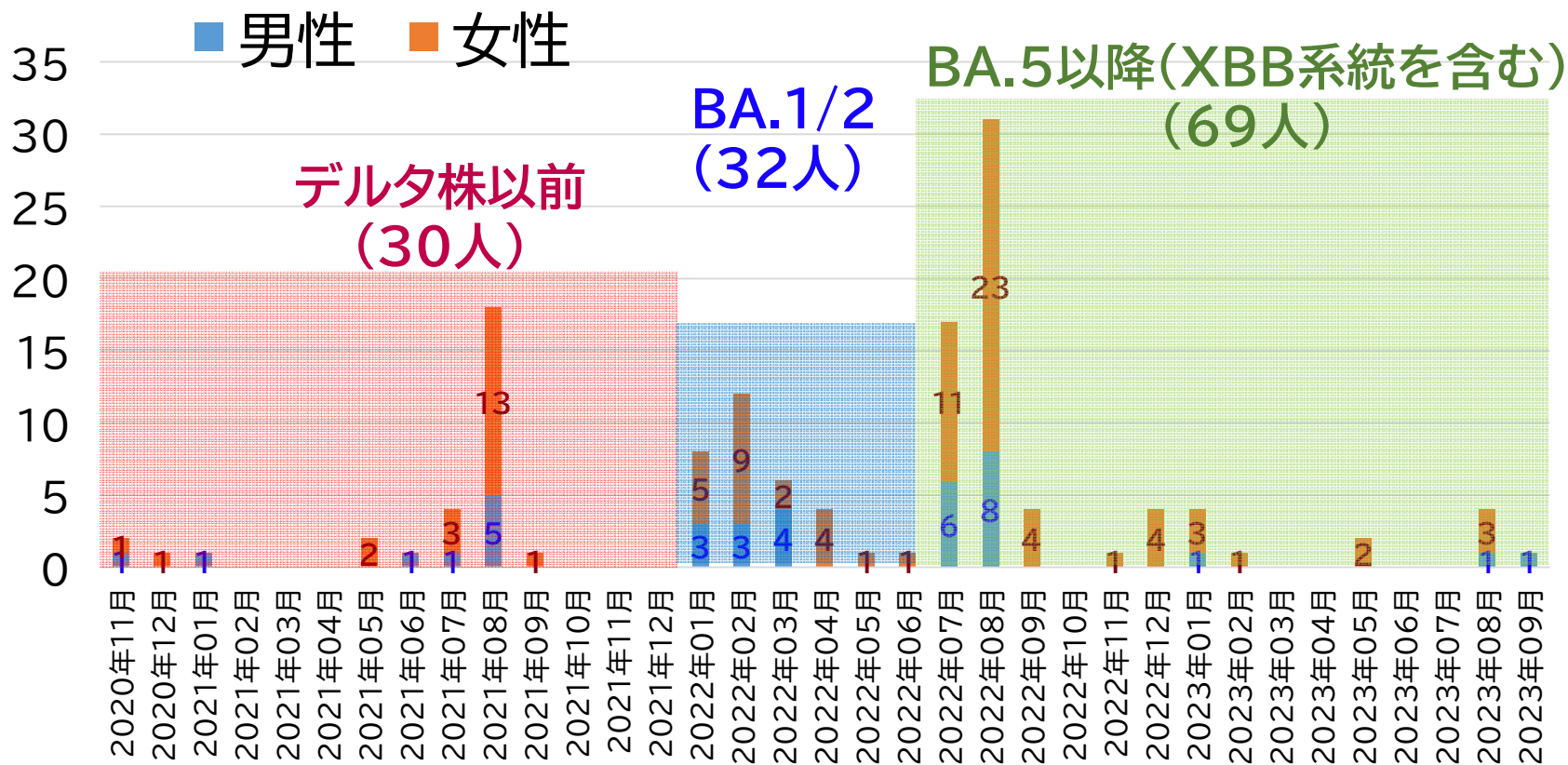


(2)年代



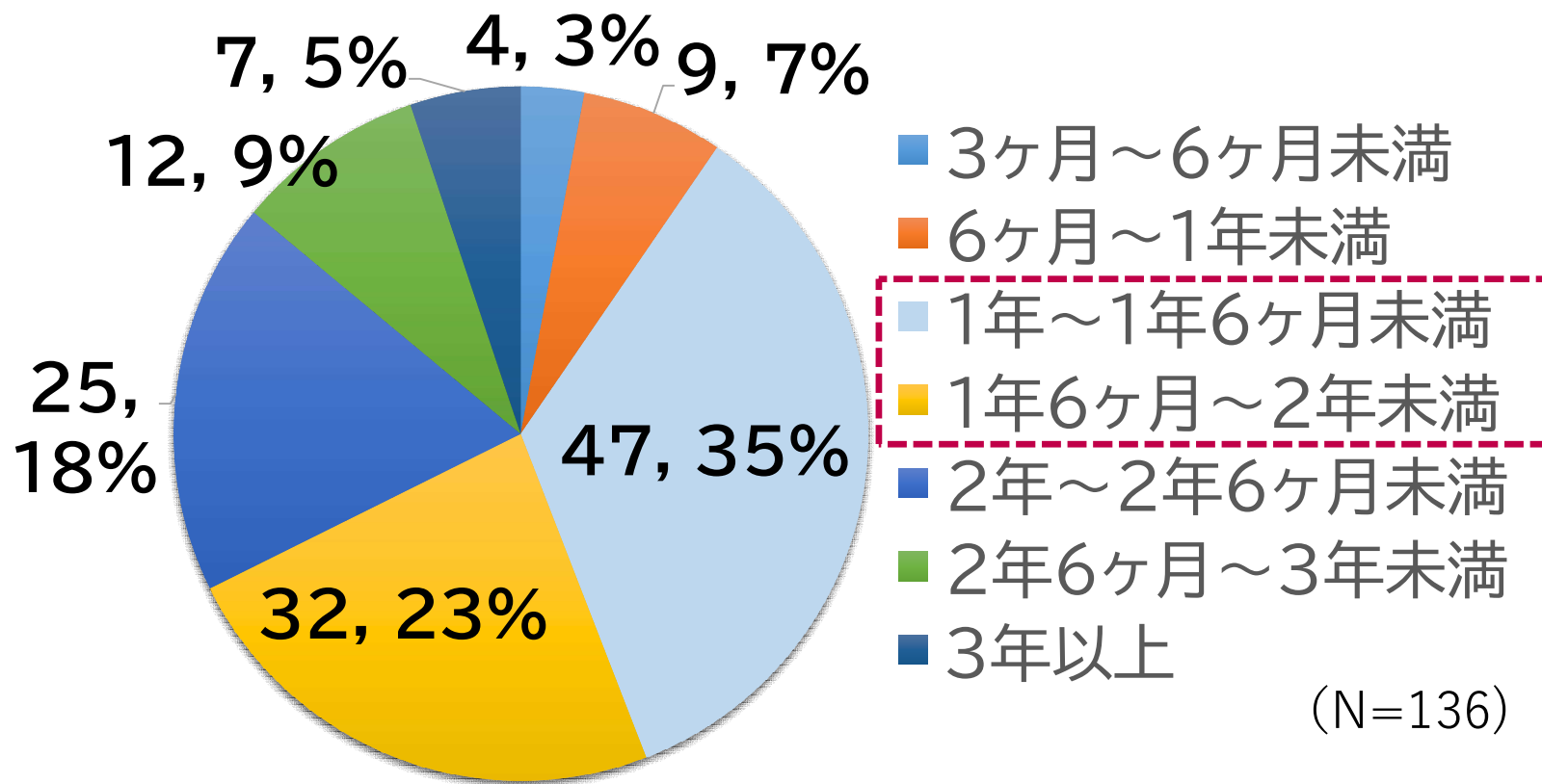
4 回答者の罹患時期

N=131 ※



※初回調査と紐付けができなかった5人を除く

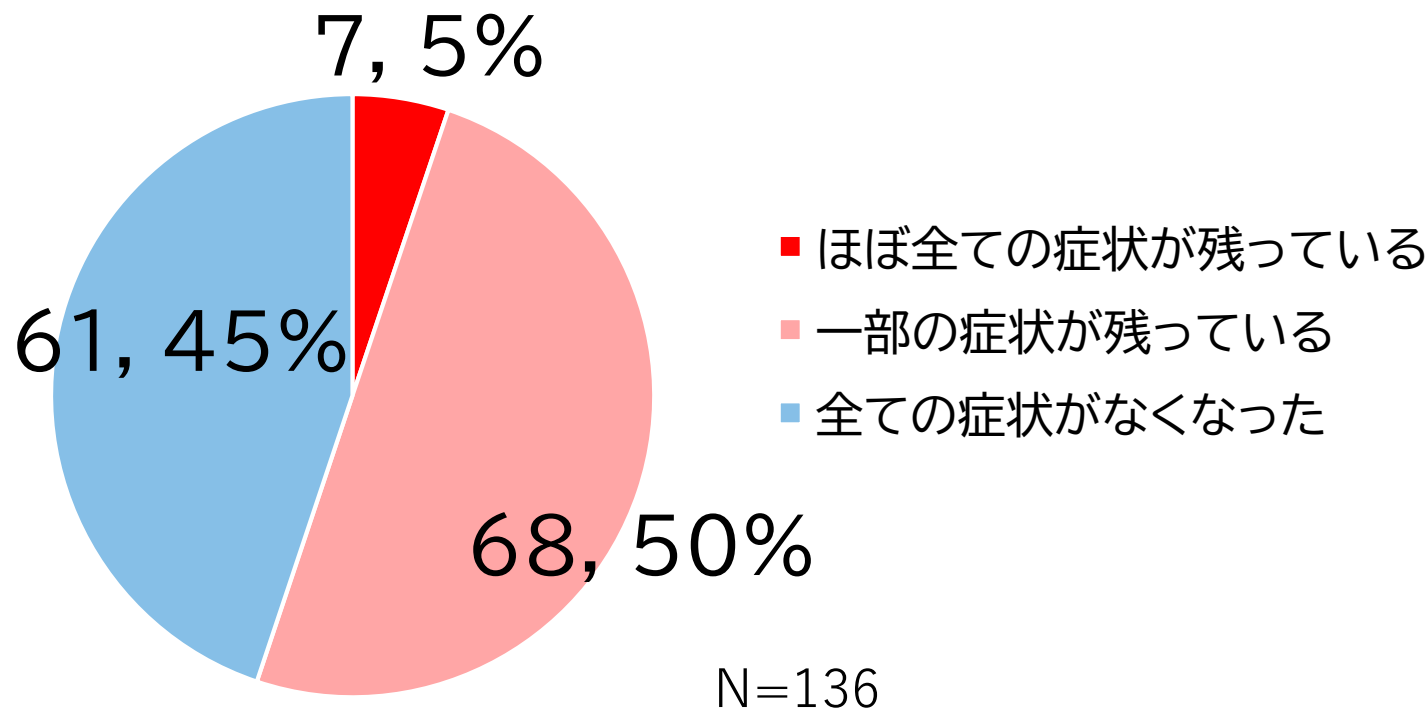
5 初めて新型コロナウイルス感染症と診断されてからの経過期間



1年以上2年未満の回答者が約6割

6-1 追跡調査時点のコロナ罹患後症状の状況(全体)

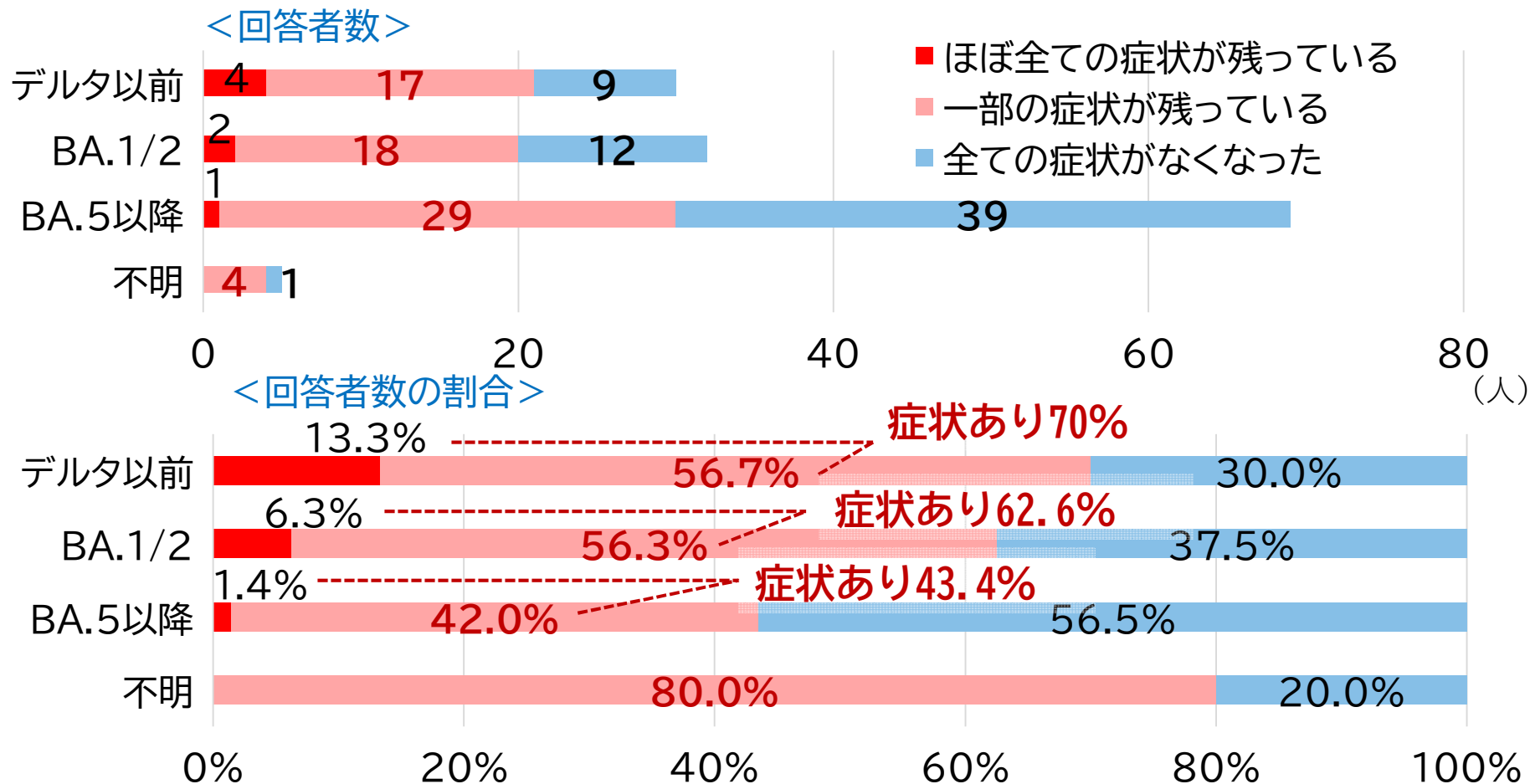
Q. 現在、コロナ罹患後症状は残っていますか。



追跡調査時点では、全ての症状がなくなった人は45%であり、5割以上の人が「ほぼ全て」、又は「一部」の症状が残っていると回答した。

6-2 追跡調査時点のコロナ罹患後症状の状況(感染株ごとの比較)

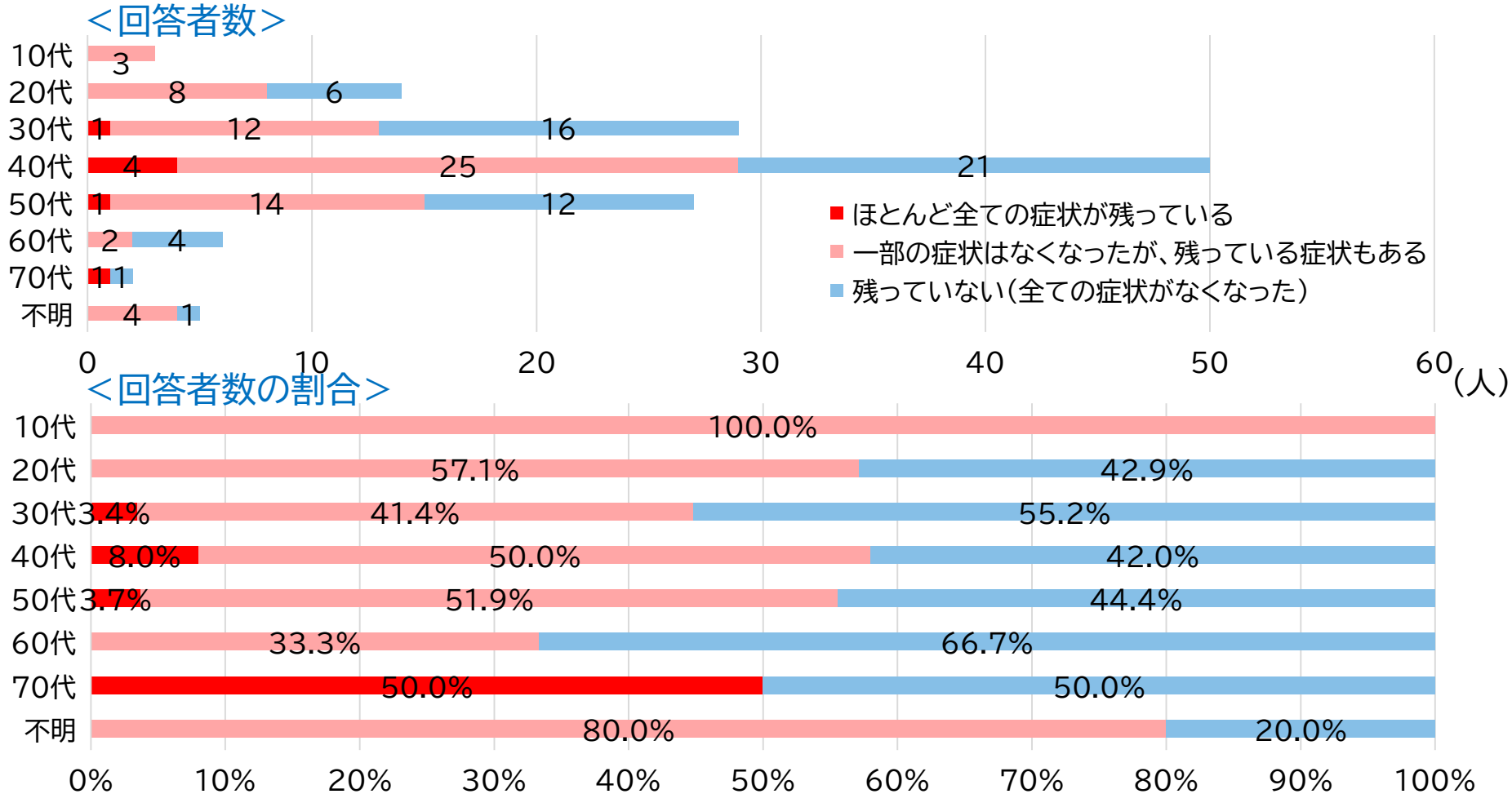
Q. 現在、コロナ罹患後症状は残っていますか。N=136



症状が残っている人の割合は、「デルタ以前」が70%、「BA.1/2」が62.6%、「BA.5以降」が43.4%と、より初期の変異株に罹患した人の方が症状が長引く傾向が見られた。

6-3 追跡調査時点のコロナ罹患後症状の状況(年代による比較)

Q. 現在、コロナ罹患後症状は残っていますか。 N=136



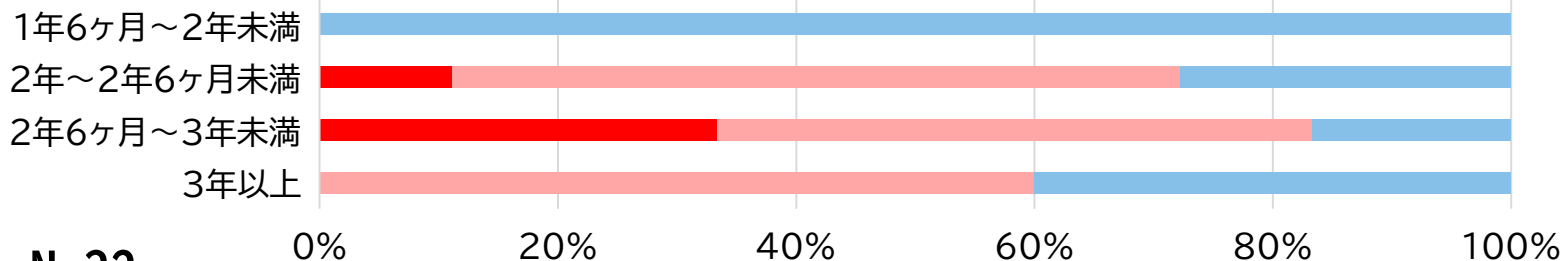
「ほとんどすべての症状が残っている」と回答した人は30～70代に分散しており、年代による傾向は認められなかった。

6-4 追跡調査時点のコロナ罹患後症状の状況(経過期間×感染株)

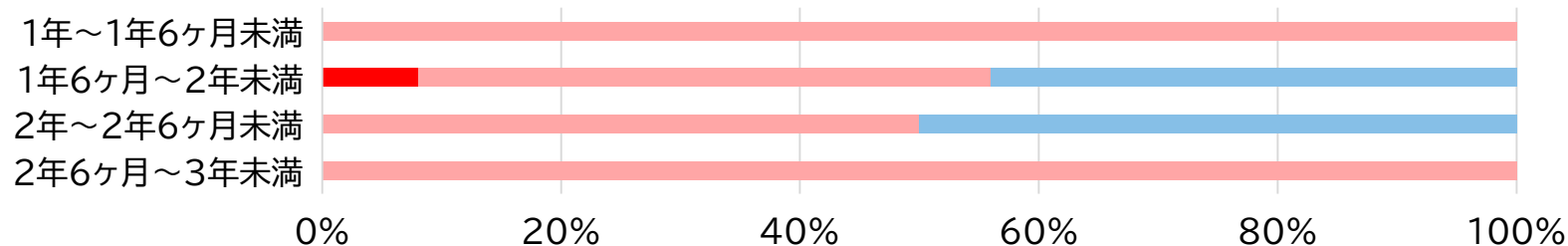
N=136

- ほとんど全ての症状が残っている
- 一部の症状はなくなったが、残っている症状もある
- 残っていない(全ての症状がなくなった)

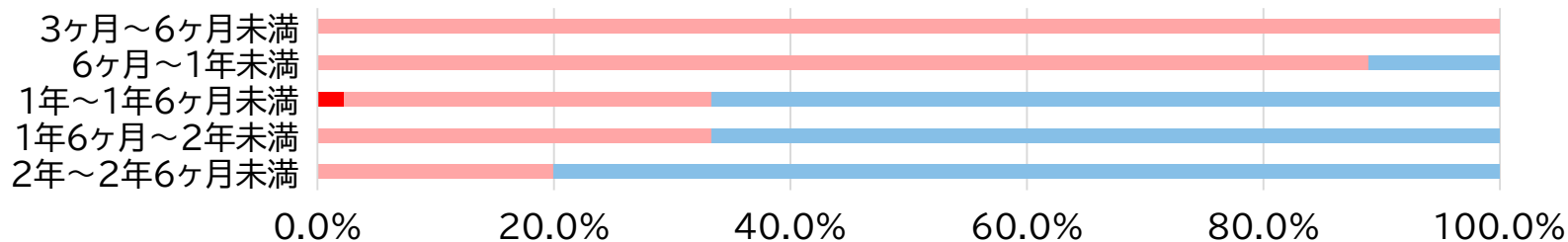
デルタ以前 N=30



BA. 1/2 N=32

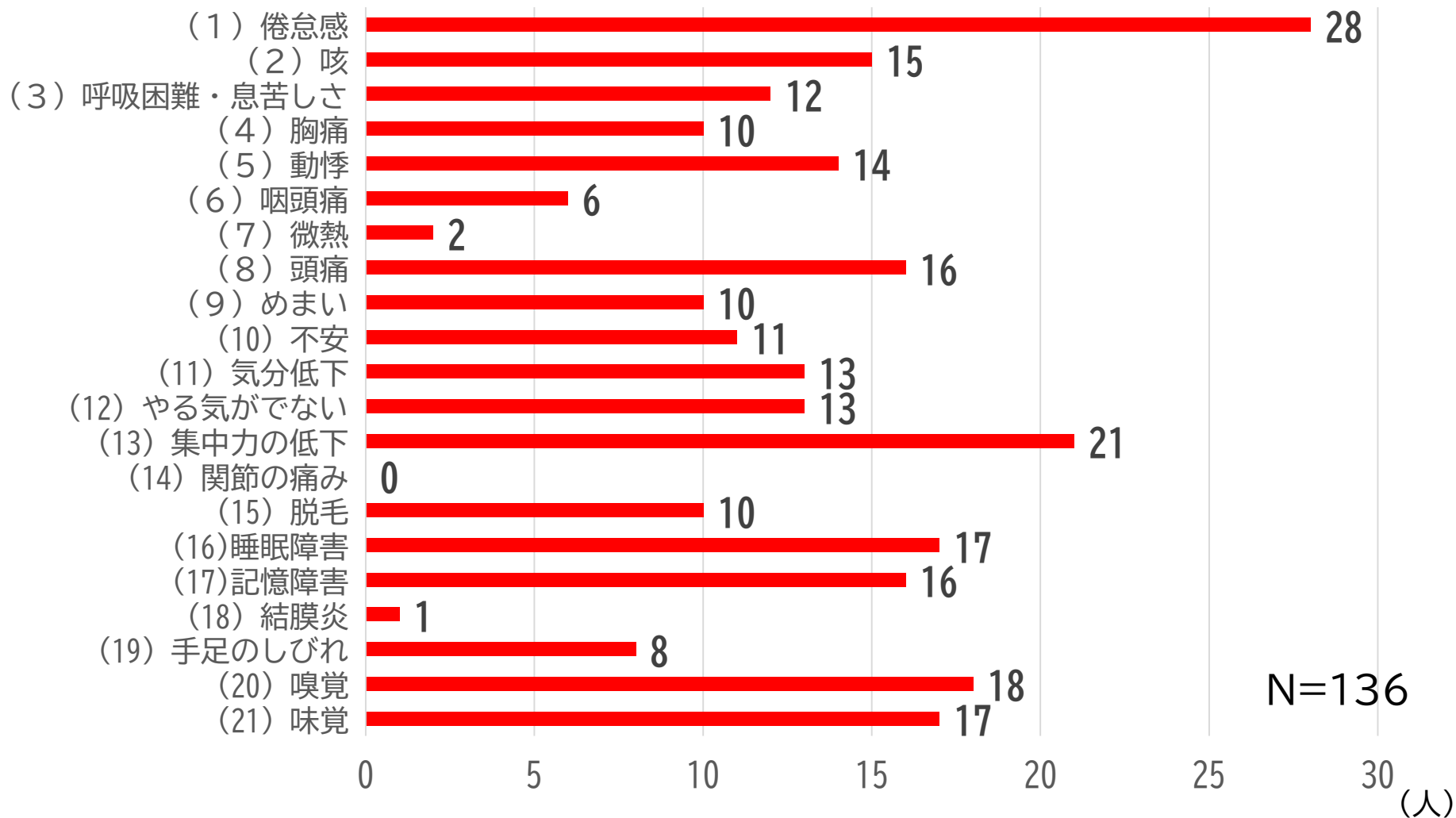


BA. 5以降 N=69



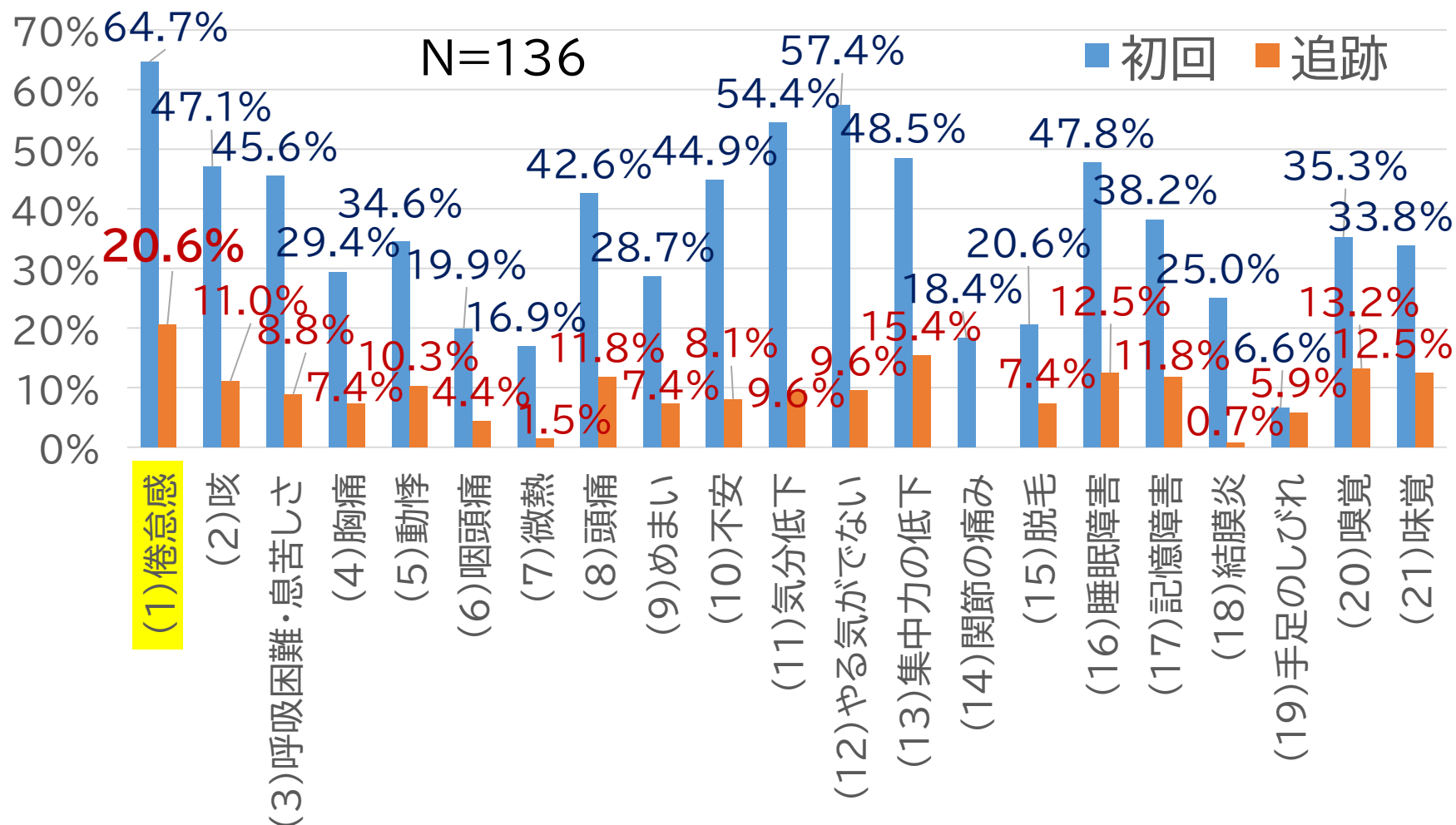
「BA.5以降」では、時間経過に伴い、症状が残っている人の割合は低くなる傾向にあった。

7 追跡調査時点で自覚している症状【複数回答可】



追跡調査時点では、「倦怠感」、「集中力の低下」、「嗅覚障害」の順で回答者が多かった。

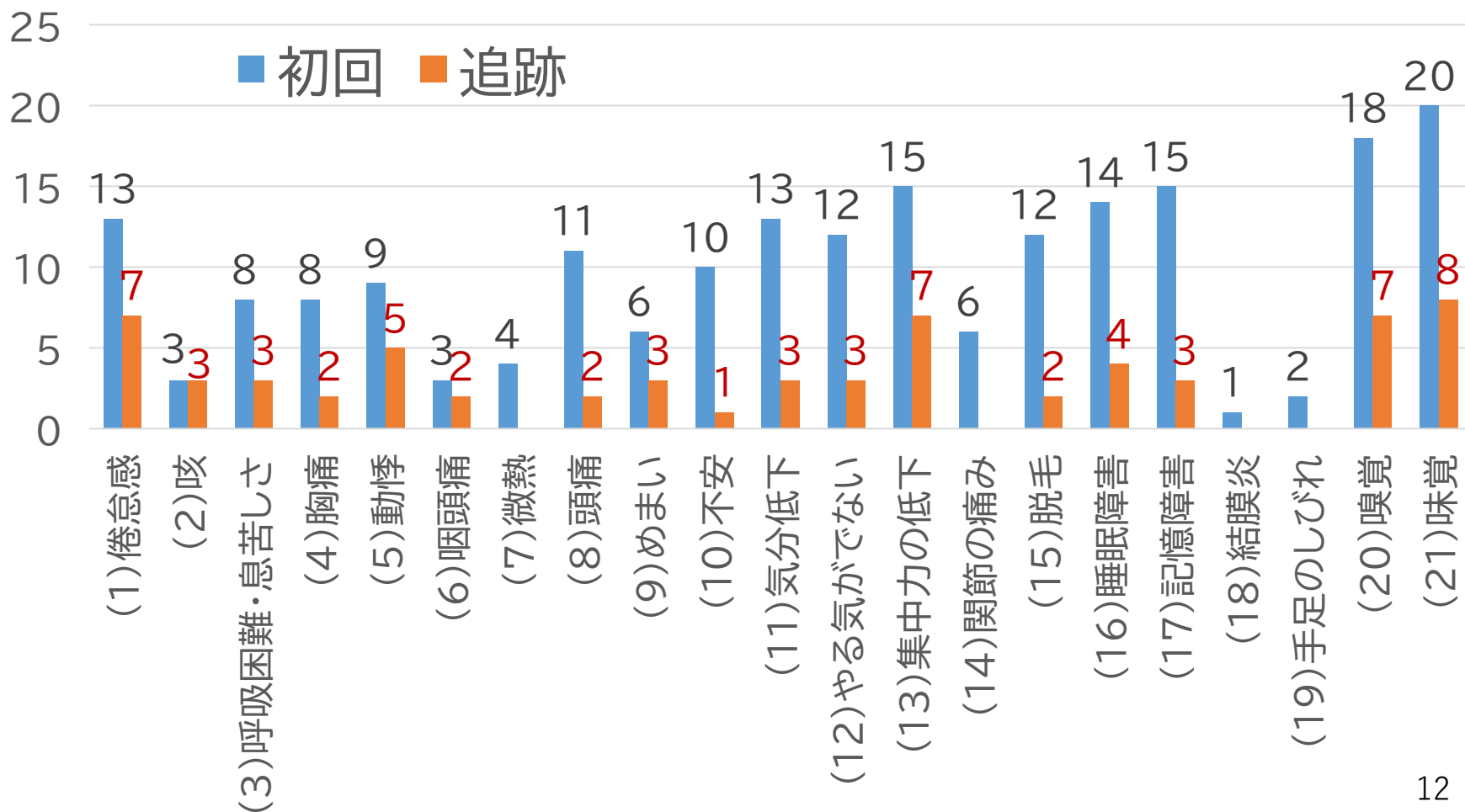
8 症状有と回答した方の割合【複数回答可】 (初回調査時と追跡調査時の比較)



追跡調査時点でも残っている症状は「倦怠感」が2割と一番多かった。
倦怠感を含むすべての症状で、追跡調査時に症状有と回答した人の割合は、
初回調査時よりも0.7~47.8%低下していた。

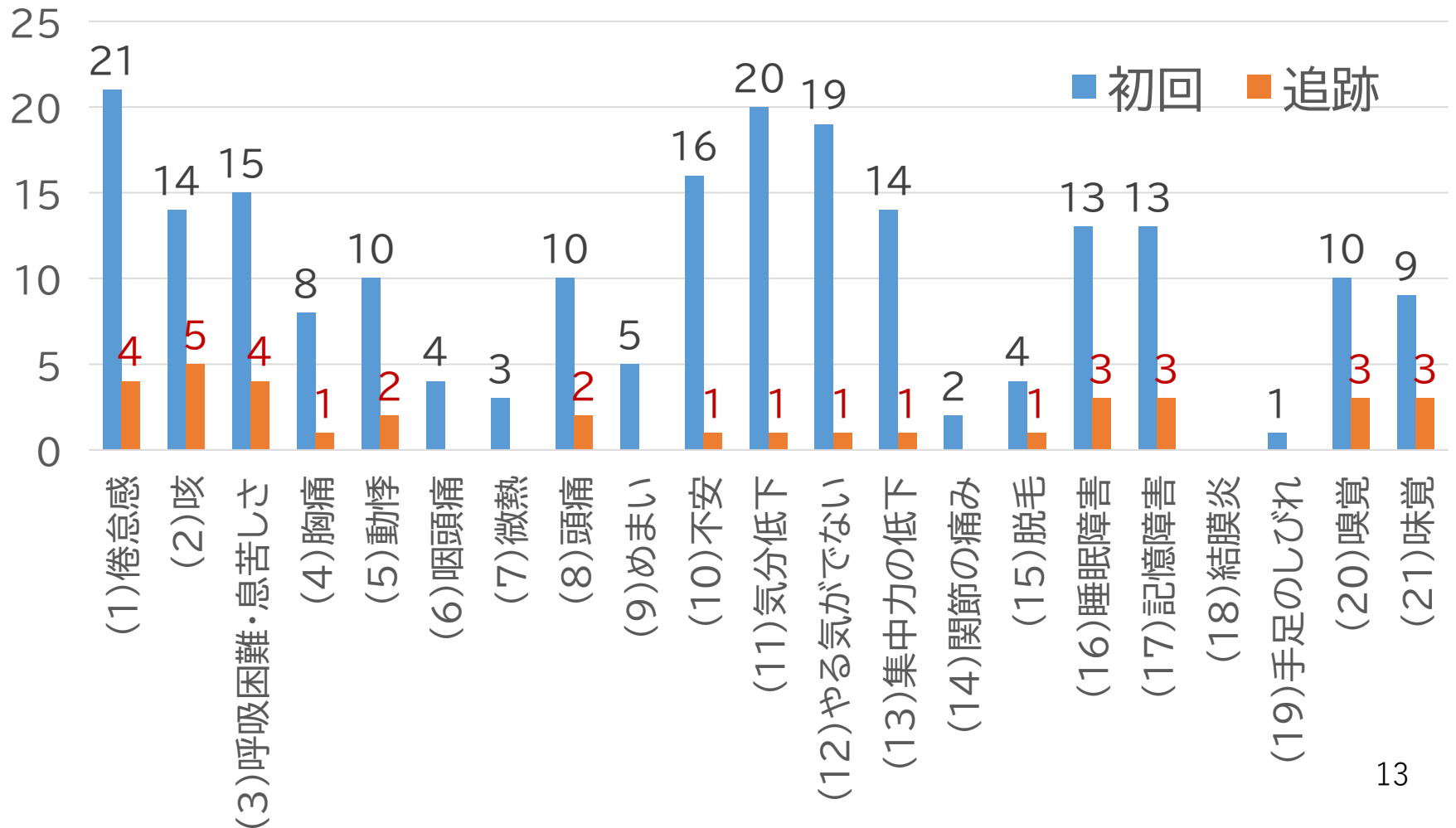
9-1 初回調査時に症状ありと回答した人の追跡調査時点の状況 「デルタ株以前」

・初回調査時点で症状ありと回答した人の追跡調査時点での症状の有無について
(例)初回時「倦怠感」ありと回答した人13人のうち、追跡時点でも症状があると回答した人は7人



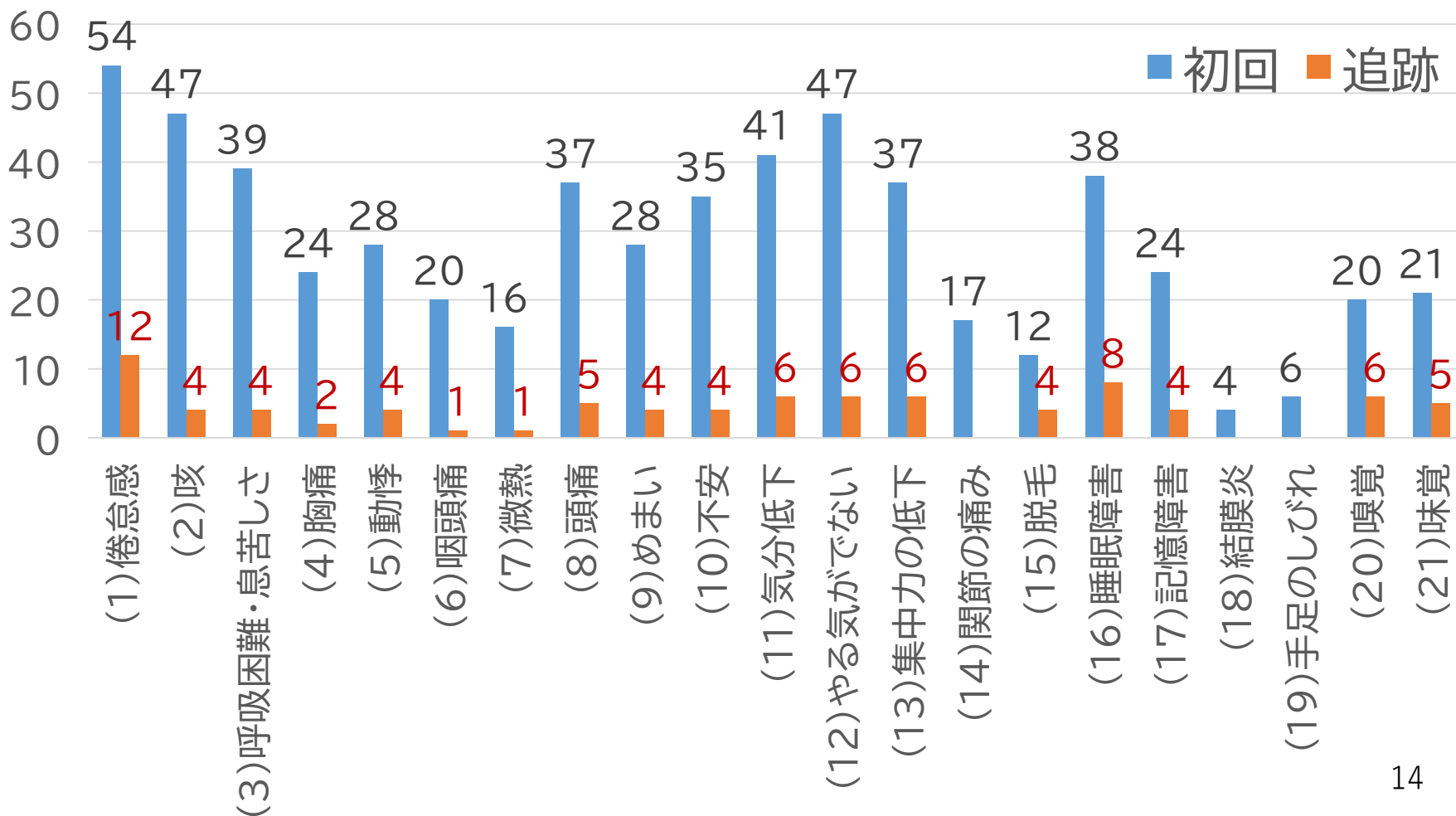
9-2 初回調査時に症状ありと回答した人の追跡調査時点の状況 「BA.1/2」

・初回調査時点で症状ありと回答した人の追跡調査時点での症状の有無について
(例)初回時「倦怠感」ありと回答した人21人のうち、追跡時点でも症状があると回答した人は4人



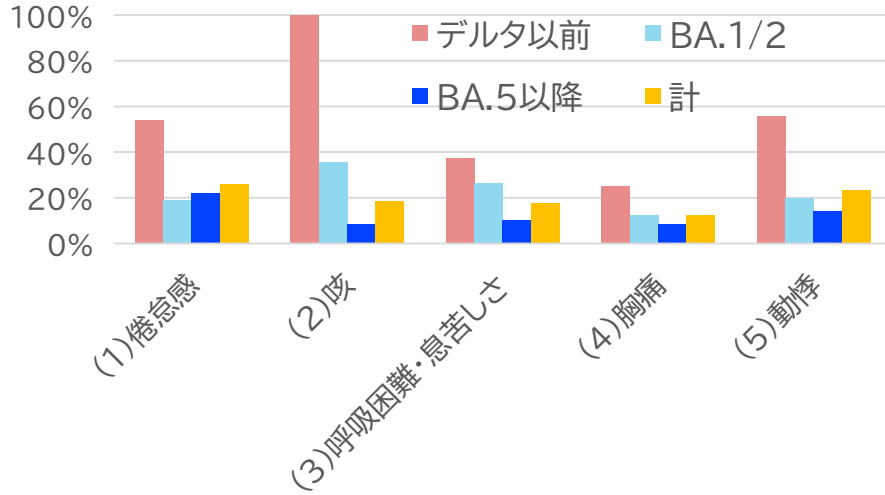
9-3 初回調査時に症状ありと回答した人の追跡調査時点の状況 「BA.5以降」

・初回調査時点で症状ありと回答した人の追跡調査時点での症状の有無について
(例)初回時「倦怠感」ありと回答した人54人のうち、追跡時点でも症状があると回答した人は12人

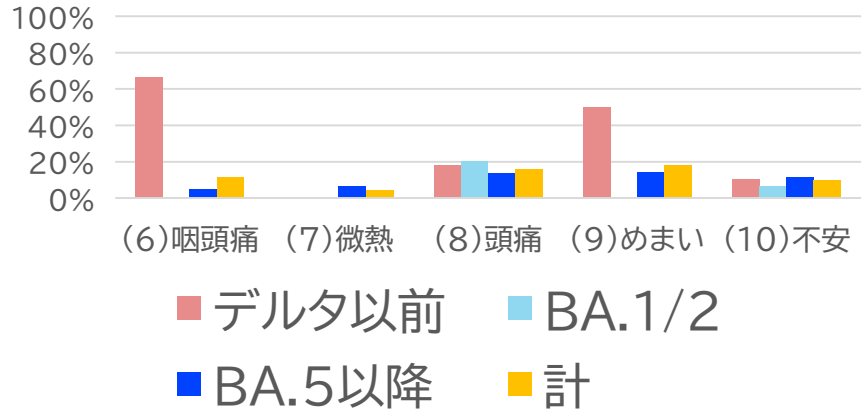


10 初回調査時にあった症状の追跡調査時に残っている割合 (9-1~3の結果を割合にして比較)

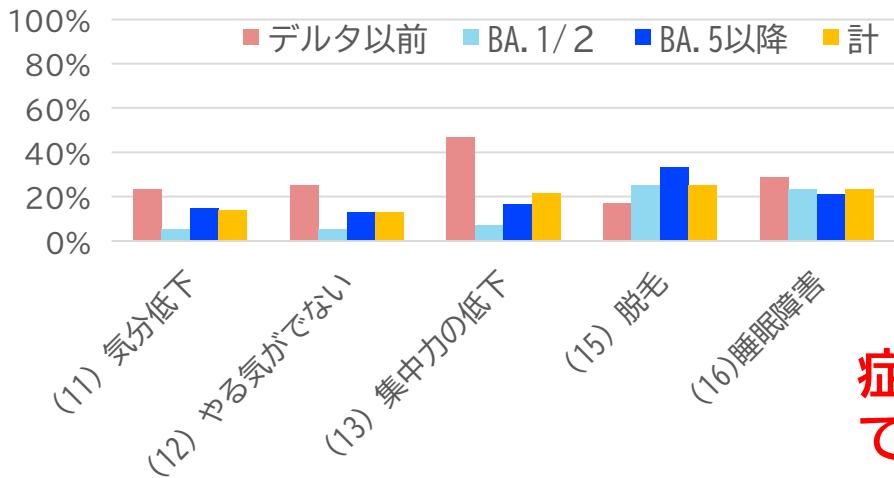
症状の残っている割合(1)



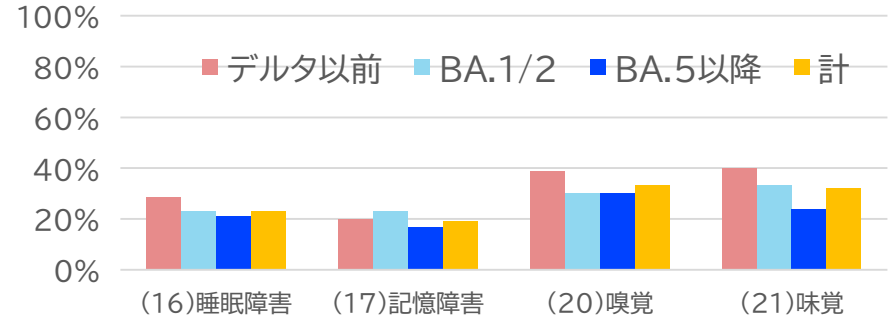
症状の残っている割合(2)



症状の残っている割合(3)



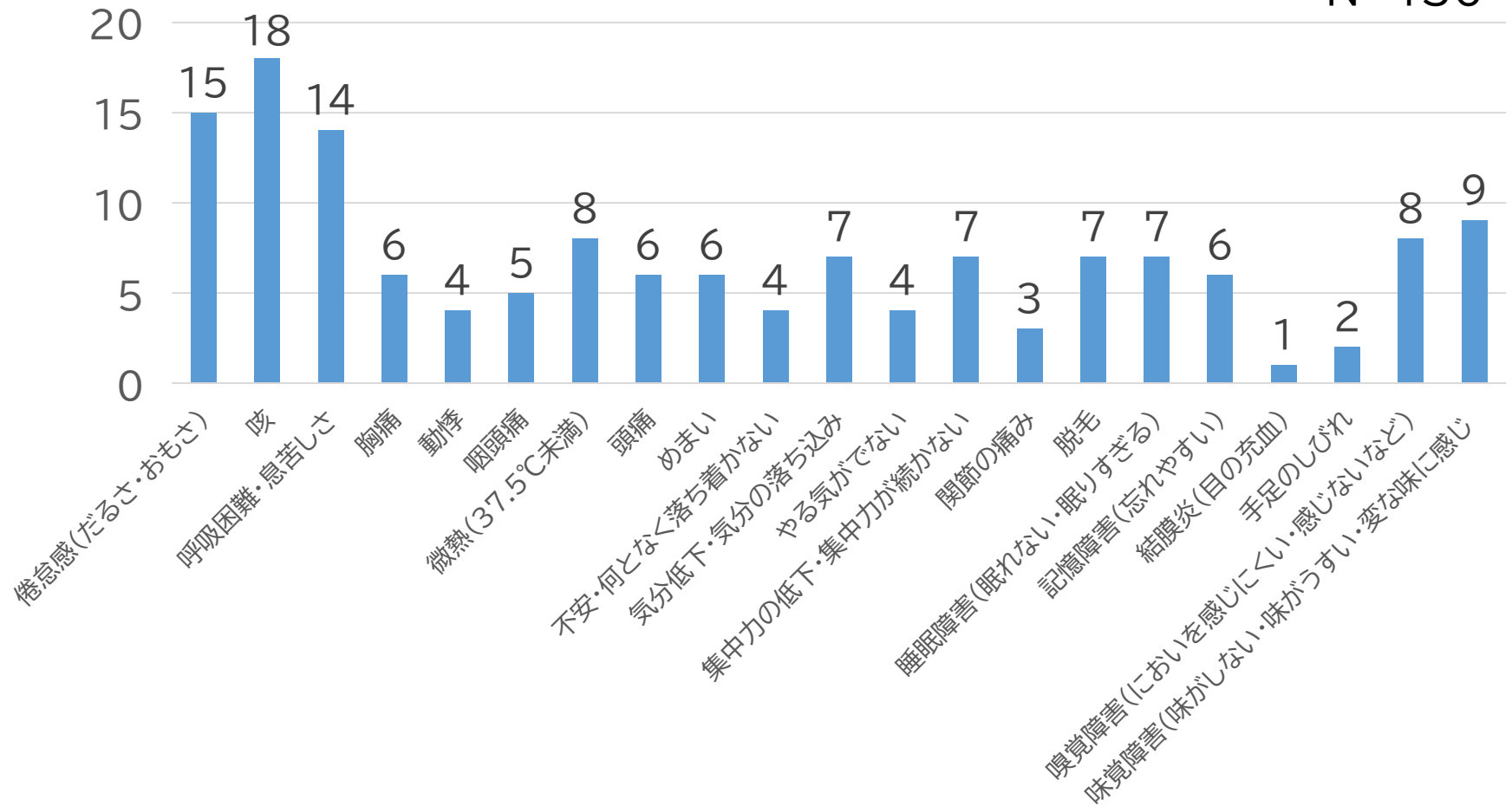
症状の残っている割合(4)



症状の残っている割合は14の症状において「デルタ以前」が一番高かった。

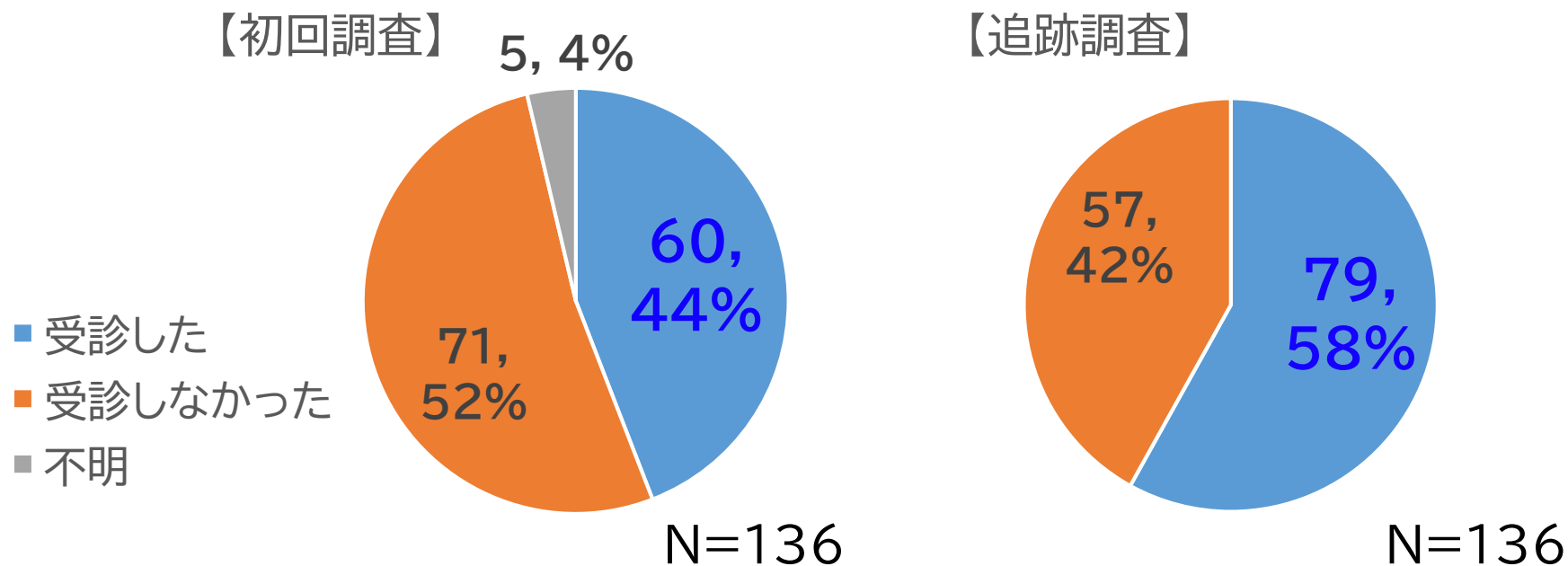
11 追跡調査時点でよくなって消えた症状【複数回答可】

N=136



12-1 医療機関の受診状況(受診の有無)

Q. 後遺症の治療・相談のため、医療機関を受診しましたか。

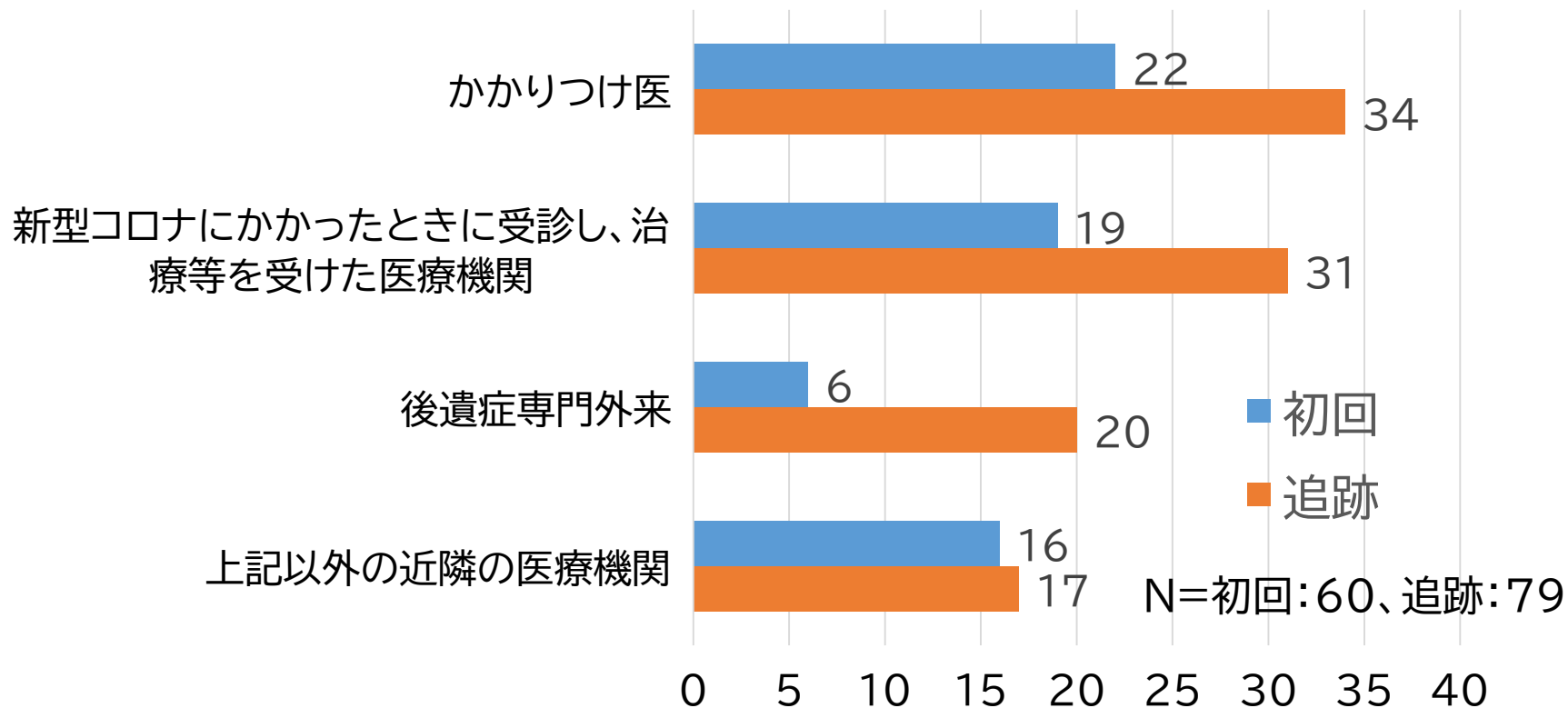


受診したと回答した人の割合が、44%から58%に**増加 (+14pt)**

12-2 医療機関の受診状況(受診先の医療機関)

Q. 受診先の医療機関はどちらですか。【複数回答可】

(14-1で「受診した」と回答した人への質問)

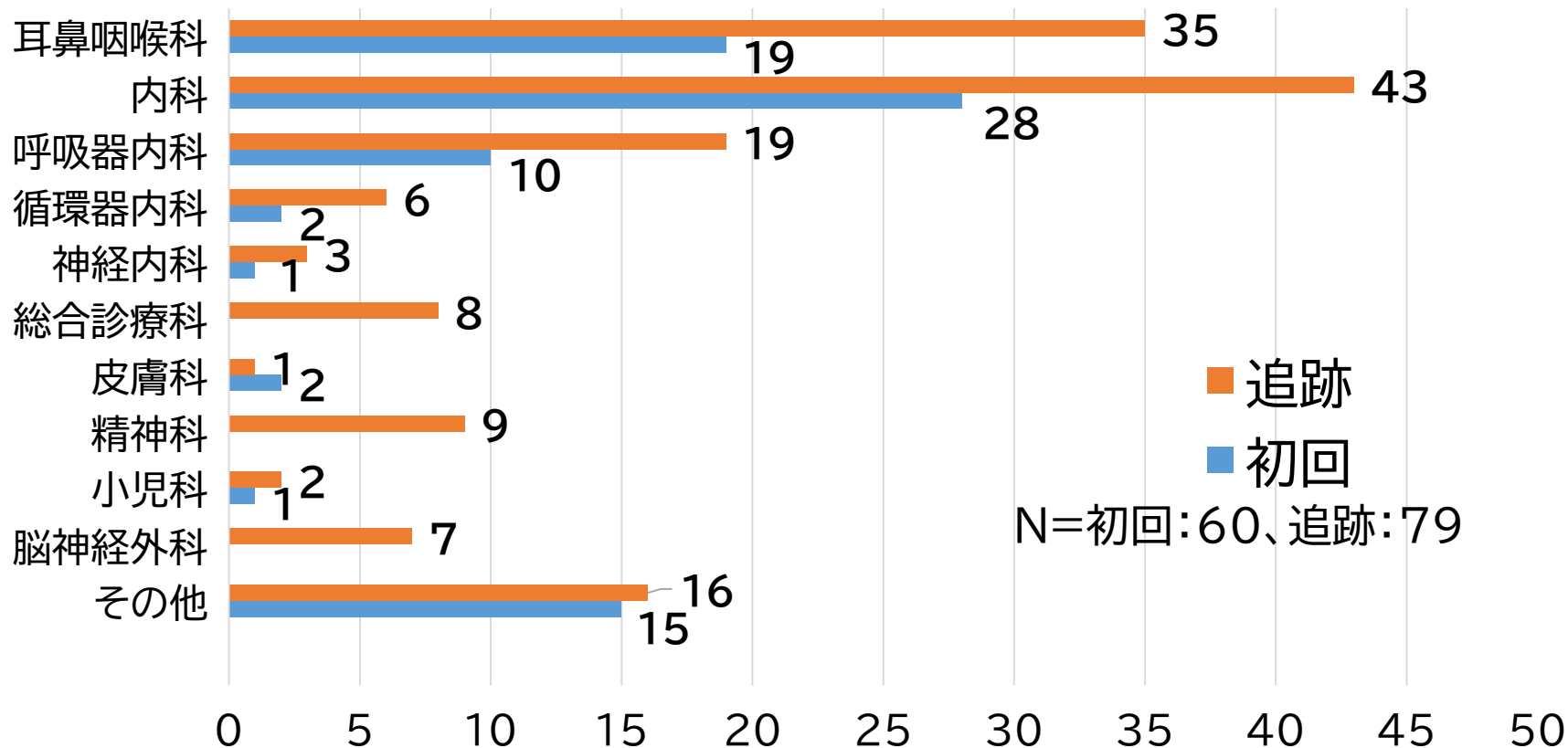


初回から追跡調査までの間に、136人のうち19人(約14%)の回答者がかかりつけ医、コロナの診断・治療を受けた医療機関、後遺症専門外来等を初めて受診

12-3 医療機関の受診状況(受診した診療科)

Q. 受診した診療科はどちらですか。【複数回答可】

(14-1で「受診した」と回答した人への質問)



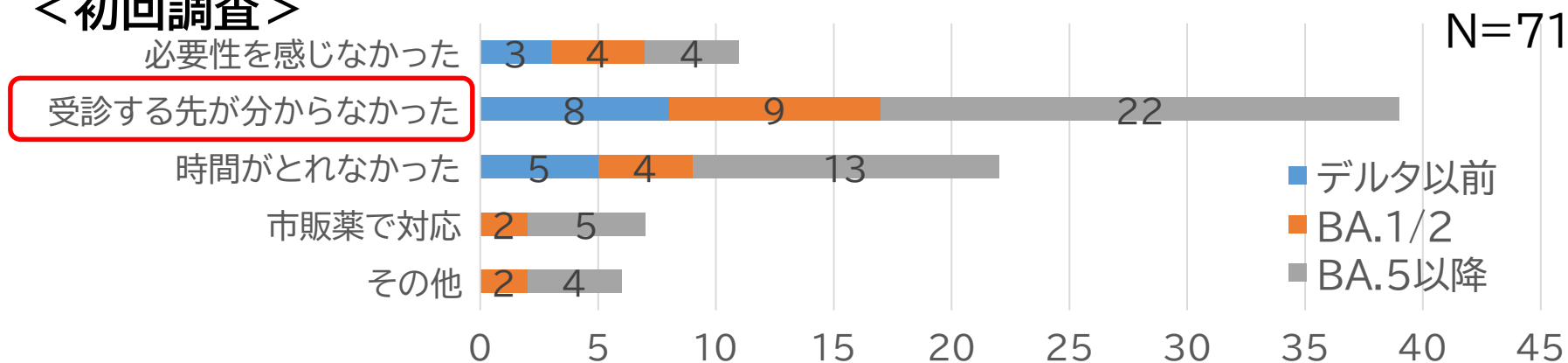
受診した診療科は初回、追跡調査のいずれも内科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科の順に多い

13-1 受診しなかった理由【複数回答可】(回答数)

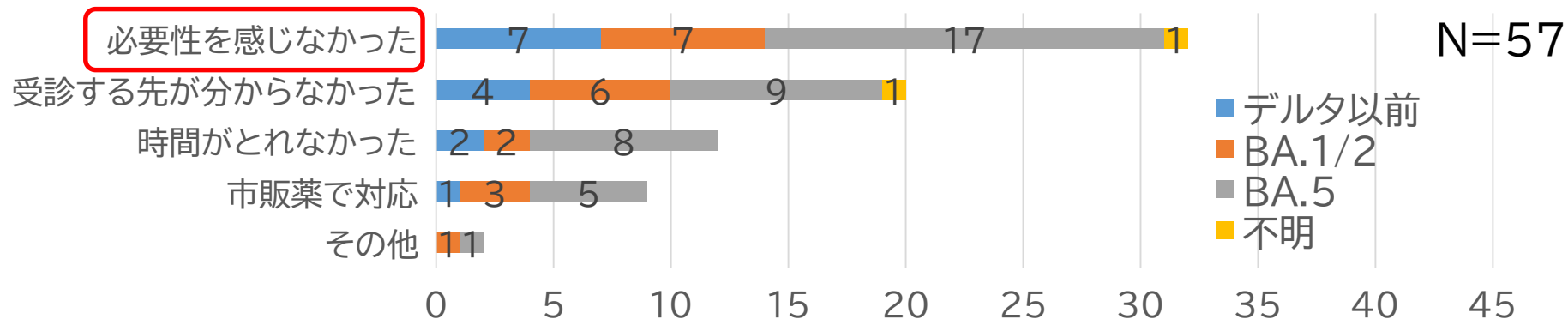
(12-1で「受診しなかった」と回答した人への質問)

Q. 受診しなかった理由は何ですか【複数回答可】

<初回調査>



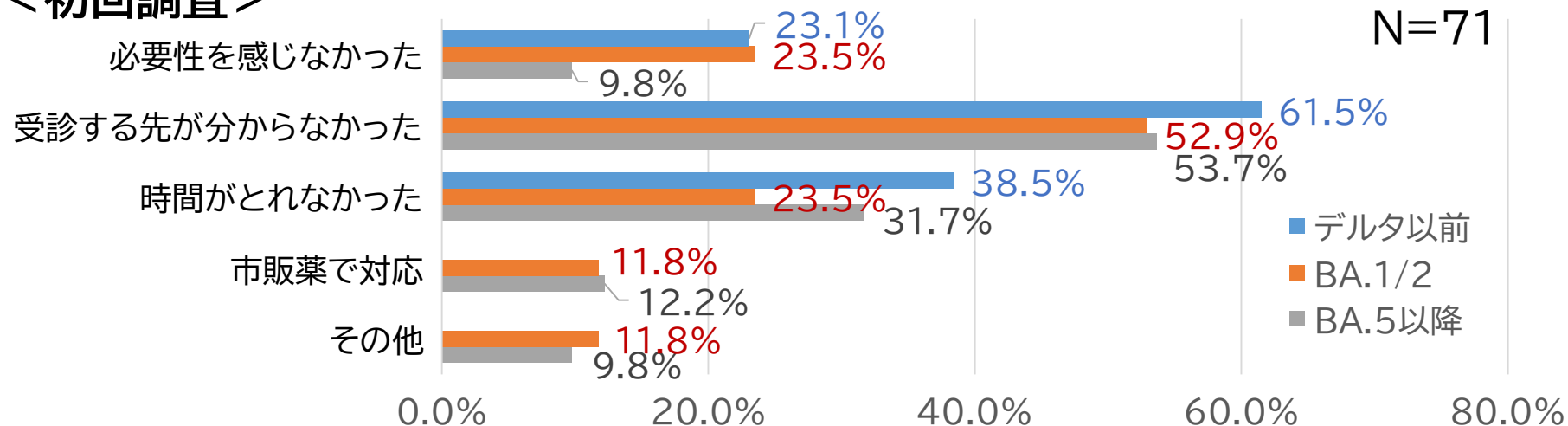
<追跡調査>



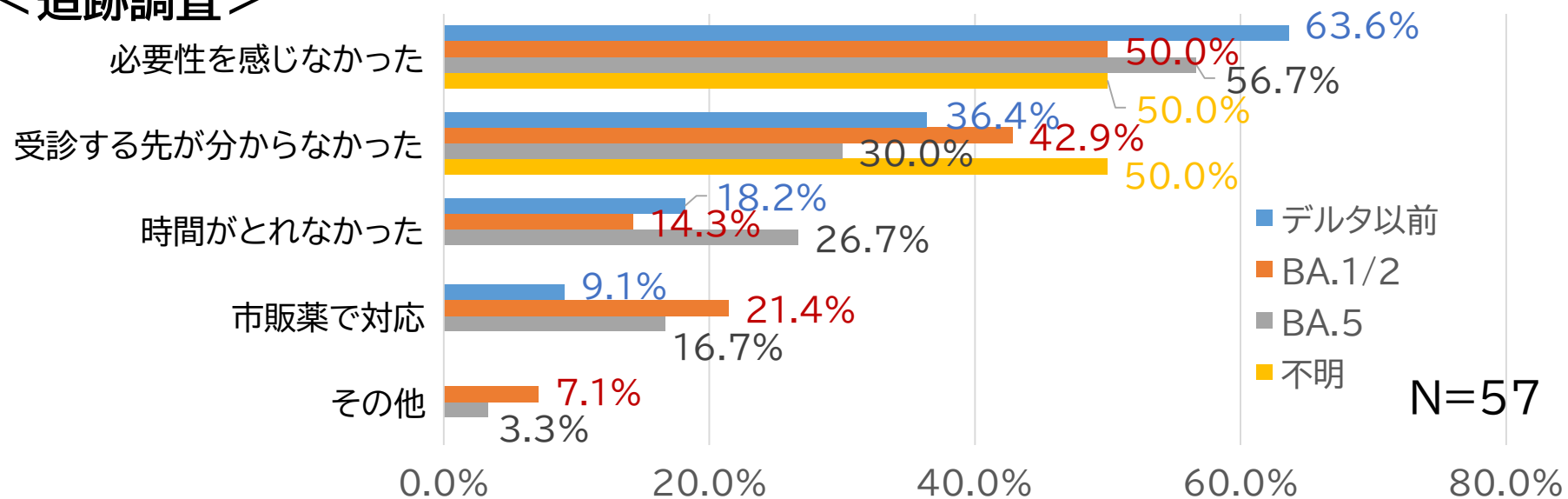
初回調査では「受診先が分からなかった」、追跡調査では「必要性を感じなかった」と回答した人が一番多かった。

13-2 受診しなかった理由(感染株ごとの回答数の割合)

<初回調査>

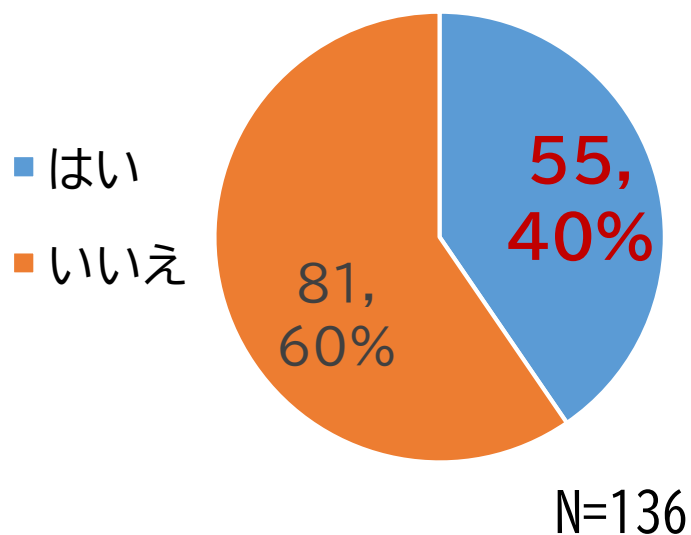


<追跡調査>

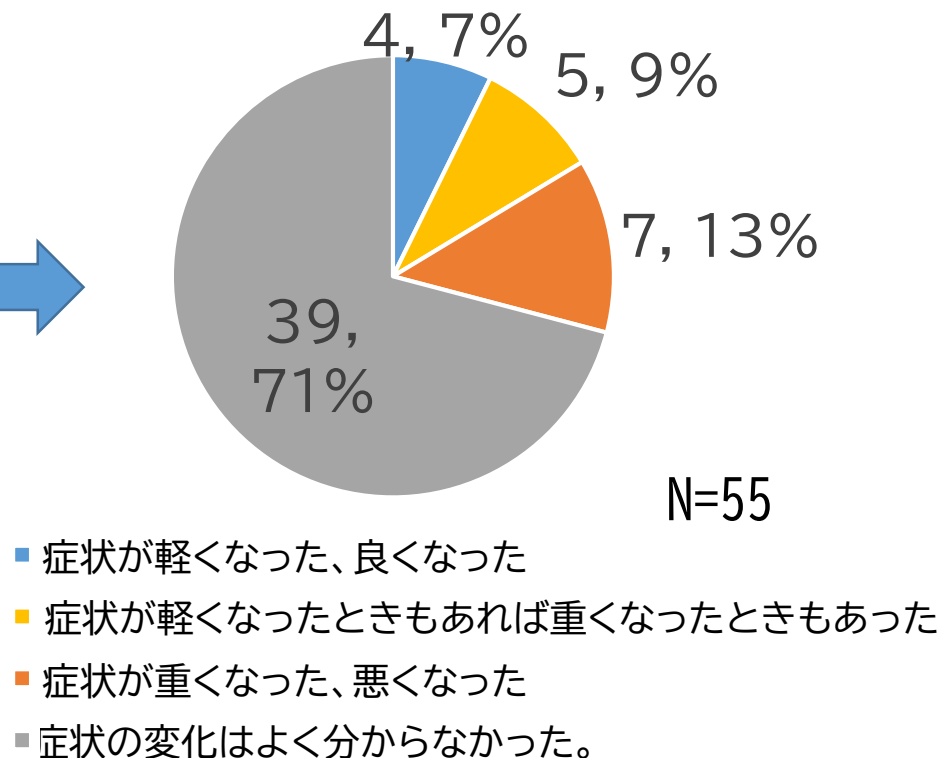


14 症状がある間のワクチン接種状況と症状変化【追跡時点】

Q. コロナ後遺症の症状が出ている間にワクチンを打ちましたか



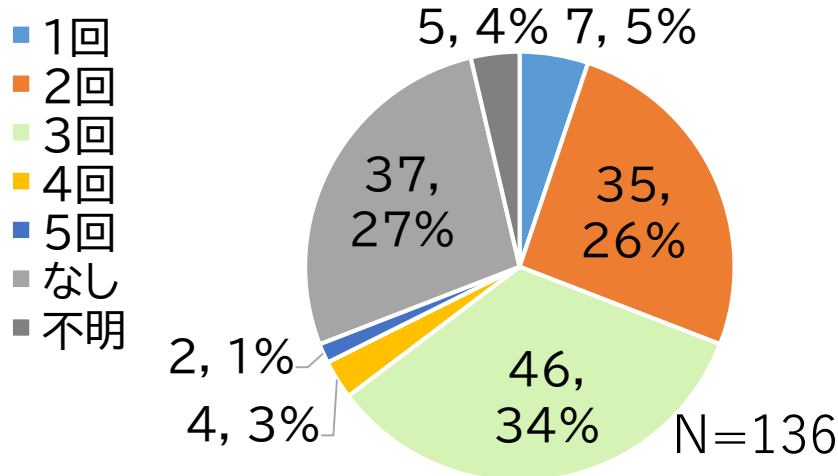
Q. ワクチンを打って症状の変化はありましたか。



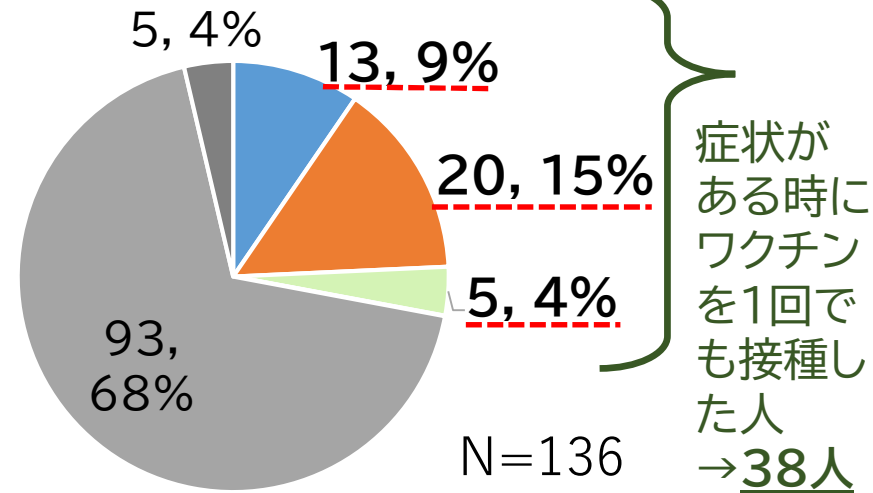
症状が出ている間にワクチンを打った場合の影響については、特別な傾向は認められなかった。

15 症状がある間のワクチン接種状況と症状の変化【初回時点】

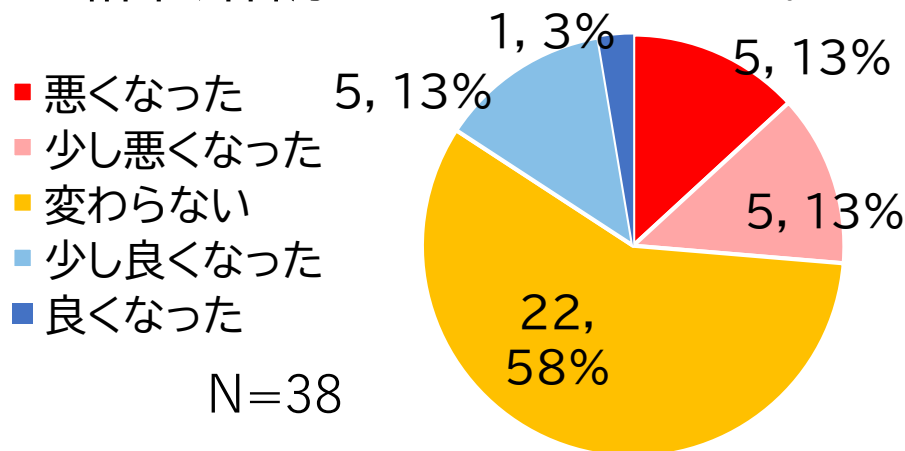
陽性判明時点でのワクチン接種回数



後遺症の症状がある時のワクチン接種回数



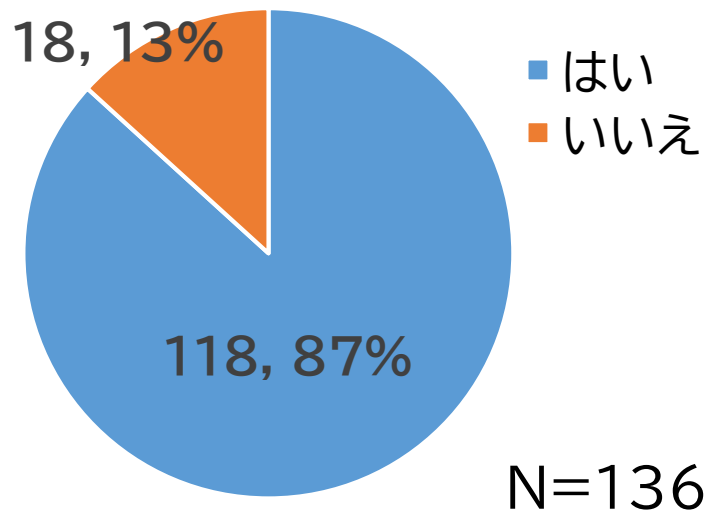
後遺症の症状がある時、ワクチンを接種した結果、体調はどうになりましたか。



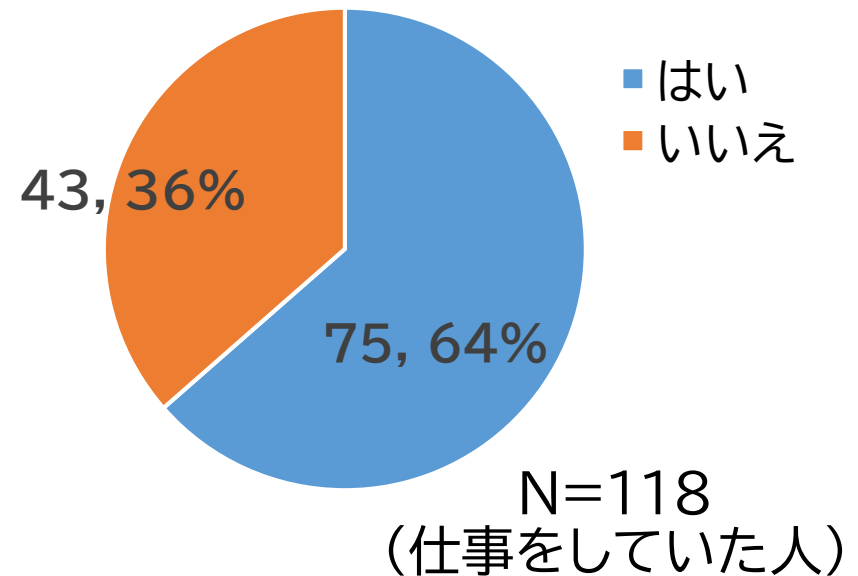
症状が出ている間に打ったワクチンの影響は、「変わらない」が約6割、少しでも悪くなった人は26%、少しでも良くなった人は16%であり、特別な傾向は認められなかった。

16-1 仕事への影響

Q. 新型コロナに感染する前から仕事をしていましたか。



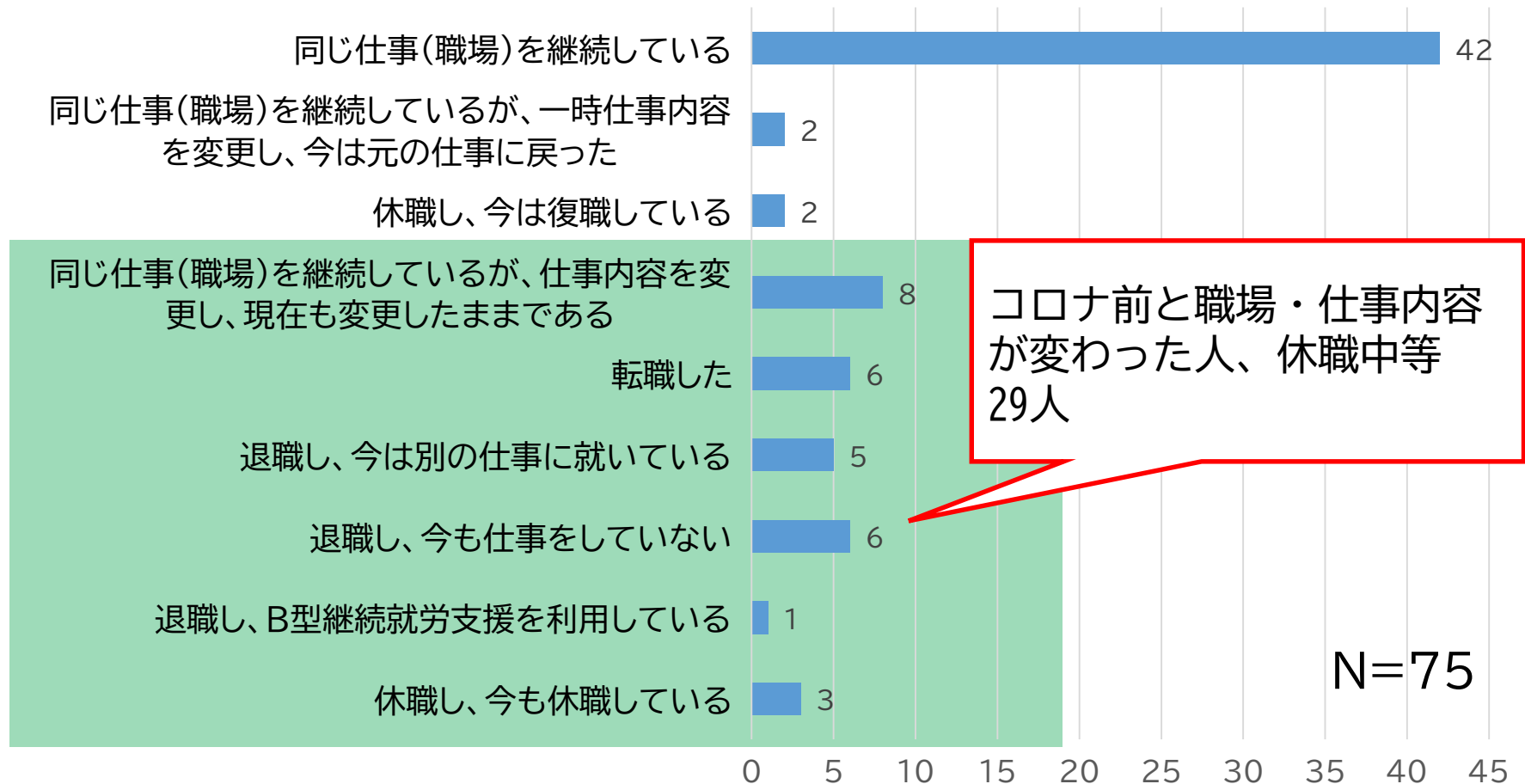
Q. 新型コロナの罹患後症状が仕事に影響しましたか。



「新型コロナに感染する前から仕事をしていた」と回答した人の約6割が仕事に影響があったと回答した。

16-2 仕事への影響(コロナ罹患前後の仕事の状況)

Q. コロナにかかる前と現在の仕事について教えてください。



仕事をしていたと回答した人118人の約4分の1(29人)が、コロナ前と違う仕事に就いたり、現在も休職している等の影響を受けている。

16-3 仕事への影響(コロナ罹患前後の仕事の内容)

Q.罹患前後(罹患中)の仕事の内容を教えてください【任意】

・任意回答で回答した人(24人)の主な回答

仕事の内容を変更し、現在も変更したまま	正規社員→短時間パートに変更
休職し、今は復職している	看護師:復職直後は半日勤務+担当業務の負荷軽減 営業:7か月間休職
転職した	公務員、飲食業、理学療法士、訪問看護、銀行員
退職し、今は別の仕事	派遣職員→事務軽作業、接客業→介護職 など

罹患後症状の影響により、短時間勤務へ変更したり、負担の軽い業務へ変更してもらったとの回答があった。

17 就活への影響

Q.罹患前後(罹患中)の仕事の内容を教えてください【任意】

罹患後症状がある時期が就職活動の時期だった大学生や高校生等は3人いて、3人とも就職活動へ影響があったと回答

属性	コロナと診断されてからの経過期間	現在残っている症状	就職活動への影響	就職にどのような影響があったか	療養終了後の生活の変化
20代男性	2年6ヶ月～3年未満	呼吸困難・息苦しさ、動悸(脈や心臓がどきどき速い)、記憶障害(忘れやすい)	あり	<u>就業時間の短い企業に就職せざるを得なかった</u>	息苦しさの出現のため横になっていることが多い
20代女性	2年6ヶ月～3年未満	関節の痛み	あり	<u>現在もリウマチの症状により休みがちになっている。</u>	-
10代男性	3ヶ月～6ヶ月未満	気分低下・気分の落ち込み、脱毛、睡眠障害(眠れない・眠りすぎる)	あり	<u>就職できなかった</u>	学校を休みがちになった

18 療養終了後(コロナの感染力がなくなった後)の生活の変化【任意】

陽性と診断された時期	療養終了後（新型コロナの感染力がなくなったあと）の生活の変化について【追跡調査時点】	年代【初回】	性別【初回】
2021年1月	息苦しさの出現のため横になっていることが多い	20代	男性
2021年8月	料理の味付けが難しくなった	40代	女性
2022年1月	持病の喘息の悪化のため、咳が度々出る。眠れなくて(睡眠)導入剤などを処方されている	30代	女性
2022年7月	身体全体が痛むので毎日の生活が不規則です	50代	女性
2022年8月	物忘れしやすくなった。疲れやすくなった。喉が炎症している。	30代	女性
2022年8月	趣味のスポーツに行けなかった時期がある	50代	女性
2022年8月	疲れ易くなった 忘れっぽくなった(特に人の名前・予定日等)	60代	女性
2022年8月	学校を休みがちである	10代	男性
2023年9月	学校を休みがちになった	10代	男性

まとめ

今回、回答があった136人(「デルタ株以前」30人、「BA.1/2」32人、「BA.5以降」69人)の追跡調査の結果をまとめると以下のとおりである。

1. **5割以上の人**が、追跡調査時点においても「全て」、または「一部」の**症状が残っており**、新型コロナに罹患してから3年以上経過しても症状を自覚している人がいた。(P6)
2. 症状が残っている人の割合は、「デルタ以前」が70%、「BA.1/2」が62.6%、「BA.5以降」が43.4%と、より**初期の変異株に罹患した人の方が症状が長引いている傾向**が見られた。(P8)
3. 追跡調査時点で**残っている症状は「倦怠感」が2割と一番多く**、いずれの症状も、**追跡調査時点で症状有と回答した人の割合は初回調査時よりも0.7~47.8pt低下していた**。(P12)
4. 初回調査時にあった症状の残っている割合を見ると、全21症状のうち、**14症状で、デルタ以前のグループが症状の残っている割合が一番高くなった**。(P16)
5. 医療機関への受診について、初回調査から追加調査時点で19人(約14%)増加した。(P18)

まとめ

6. 受診しなかった理由は、初回調査では、すべての変異株グループにおいて5割以上の人が「受診先が分からない」と回答していたが、追跡調査では3~4割に減り、「必要性を感じなかった」と回答した人が、5割を超えて一番多くなった。(P22)
7. 後遺症のある時にワクチンを接種した影響については、良くなった人、悪くなった人の両方がおり特別な傾向は認められなかった。(P23)
8. 初回調査、追跡調査ともに「コロナ後遺症が仕事に影響した」と回答した人は約6割であり、「仕事をしていただけると回答した人の4分の1が、「現在も休職していたり、以前と違う仕事に就く等の影響」を受けていた。(P25, 26)
9. 就職活動に影響があったと回答した人は3人で、学校を休みがちとなり就職できなかった人が1人、就職できた2名も就業時間が短い企業に就職する、現在も休みがちになっている、との回答があった。(P28)

留意事項

今回行った調査は、「2 追跡調査の対象者について」で説明したとおり、県ホームページに掲載した、罹患後症状に関する初回調査に回答してくれた方のうち、さらに追跡調査への協力に同意いただいた方の回答を元に分析を行っております。

追跡調査については、回答率が4割と低かったこと、後遺症の症状がまだ残っている人ほど回答することが多かった可能性などバイアスがかかっていること等が考えられますので、後遺症の回復の割合等は参考程度にとどめていただきますようお願いいたします。